

## シリアで8500年前の墓地を発見

### ポイント

- ・ およそ 8500 年前の新石器時代の墓地を発見。
- ・ 新石器時代の本格的な墓地の発見例は非常に珍しく、西アジアでも最古例の一つ。
- ・ 人骨の DNA 分析などにより、出自体系や親族構造、葬送観念といった 8500 年前の社会の様子が解明されるものと期待。

### 概要

筑波大学（学長；岩崎洋一）大学院人文社会科学研究所の常木 晃教授は、本年8月に、シリア政府と共同で行った北西シリアにあるテル・エル・ケルク遺跡の発掘調査で、およそ 8500 年前にさかのぼる新石器時代の墓地を発見しました。新石器時代の本格的な墓地の発見例は非常に珍しく、西アジアでも最古例の一つとなります。この墓地からは、少なくとも 40 体以上にのぼる埋葬人骨が発見されています。最高齢でも 45 歳ほどで、多くは 20 歳～30 歳代で死亡していました。人々は体を折った屈葬で埋葬されていましたが、頭は横を向いたり、仰向け、またうつ伏せであったり、さまざまな姿勢をとっていました。また頭位の方向も一定していませんでした。墓地内には、頭蓋骨だけを集めた二次的な埋葬や、火葬した例も認められました。

一部の墓には美しい石製の容器やスタンプ型の印章などが副葬されていましたが、埋葬法や副葬品には性や年齢による重大な差は認められず、性差や地位による差が比較的小さな社会であったと想像されます。

それぞれの墓に埋葬された人々の関係をさらに注意深く分析し、人骨の DNA 分析などをおこなうことによって、当時の死者の埋葬法ばかりでなく、出自体系や親族構造、葬送観念といった 8500 年前の社会に関わるさまざまな課題が解明されるものと期待されます。

### 研究の背景

筑波大学では、シリア政府文化財博物館総局と共同して、1997 年から北西シリアのエル・ルージュ盆地に所在する巨大な新石器時代の集落遺跡であるテル・エル・ケルク遺跡の発掘調査を進めてきました。調査の目的は、なぜこの地に非常に古い時期に、後の青銅器時代の都市遺跡にも匹敵するような大規模な集落遺跡が発達するのかを解明することにあります。

この遺跡の新石器時代層は紀元前 8500 年ごろから紀元前 6000 年ごろにかけてのものですが、これまでの 10 年間の調査によって、西アジアの中でも非常に古くからコムギやヒヨコマメなどの農耕を行っていたこと、紀元前 7500 年ごろから同 6500 年ごろに 16ha を超える西アジアでも最大規模の新石器時代集落となっていたことなどが明らかにされています。その集落は単に大規模であっただけでなく、出土する遺構や遺物から、長距離交易を行い、専門的な石器作りや土器作り、ビーズ作りを行い、スタンプ型の印章を用いた封泥システム（数千年後に文字のシステムに発達する）を使用し、家作りや葬送など生活のさまざまな場面で儀礼を執り行っていた、社会的にも経済的にもかなり複雑な社会を発達させていたことが明らかになっています。

この夏の調査で、本格的な墓地が紀元前 6500 年ごろ（今から約 8500 年前）の集落の一角に営ま

れていたことが判明しましたが、このことによって、集落に居住した人間集団そのものの特徴や、集落内での人間関係など、さまざまな課題が解明されることが期待されます。

#### 研究の経緯

調査は、筑波大学とシリア政府文化財博物館総局との合同調査として、上に述べた学術的意義とともに、両国の国際的な友好関係を深めることをも目的に行なわれています。筑波大学の考古学調査団はシリアで1971年から活動をはじめ、1990年からは本格的にほぼ毎年調査を進めています。

今回の墓地の発見について、人骨に関しては現地で形質人類学の専門家が分析を進めるとともに、歯や骨の一部をシリア政府の許可の下に日本に持ち帰り、DNA やアイソトープなどの分析を始めています。これらの科学的な分析によって、埋葬人骨間の親縁関係や食性、経済的な格差など、多くの事柄に光が当てられるものと思われま

#### 調査費

本年度の調査に当たっての経費は、学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B）、文部科学省科学研究費補助金（特定領域）を得ています。

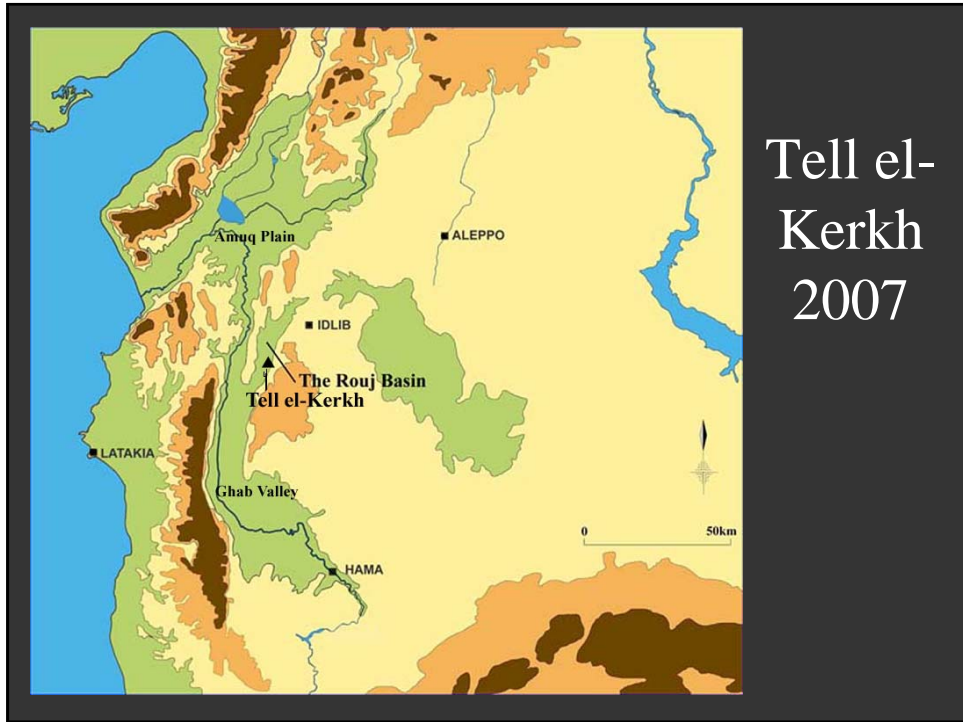
#### 成果の内容

実際の埋葬例の写真を参照。

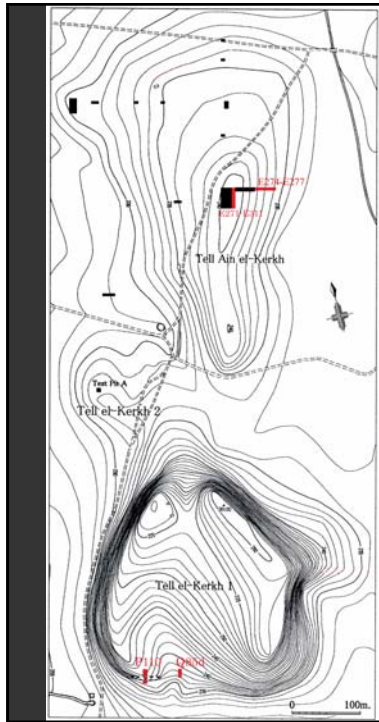
#### 今後の予定

上述したように、シリア政府の許可により日本に持ち帰った歯や骨片については、今年度中に科学的な分析を完了させる予定です。また、墓地に関わる考古学的なデータ整理を現在進めています。墓地は完掘しておらず、さらに東方と北方に広がるものと思われま

発表者 : 筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類学専攻 教授 常木 晃



# Tell el-Kerkh 2007



- Operations at Tell el-Kerkh, 2007

Ain el-Kerkh : Central Area

E271-E311 layers 4 and 5,  
Rouj 2c (Pottery Neolithic)

Ain el-Kerkh : Eastern Trench

E274-E277 Rouj 1c – Rouj 2c  
(LPPNB - Pottery Neolithic)

Tell el-Kerkh 1

P110, Rouj 7 – Rouj 9 (MB-  
Iron Age)

Q85d, Rouj 6 (EB)

# Tell Ain el-Kerkh Central Area











Str.712



Str.713









Str.716



Str.717









Str.725



Str.726



Str.738









Str.731



Str.732





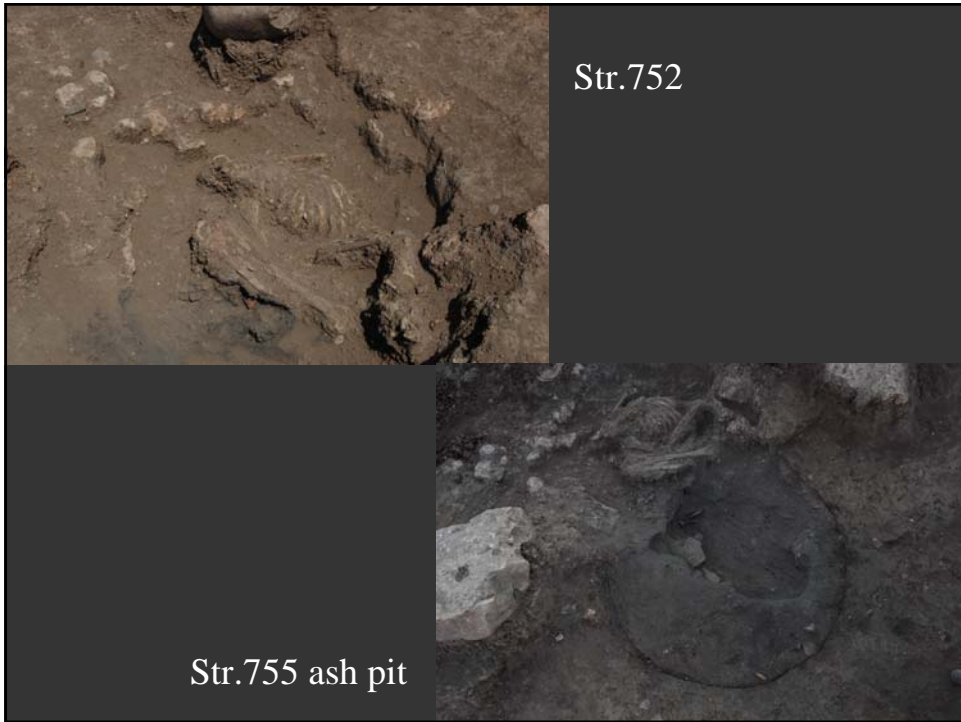
Str.743















Str.736



